



日本共産党  
北茨城市委員会  
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行  
インターネットでも  
ご覧いただけます。

<http://www.jcp-ktib.com/>

ご相談は  
お気軽に

市議会議員  
福田 明  
43-0468

市議会議員  
鈴木やす子  
42-2462

# 秋田県湯沢市

共産党員が市長のまち

## 視察記

日本共産党市議団(福田明、鈴木やす子)は10月2日、日立の党市議団(3



右から3人目が鈴木市長

名)と一緒に秋田県の湯沢市を訪ねました。

同市では、共産党員の鈴木俊夫氏が市長を務めています。4年前の旧・湯沢市時代に当選し、ひきつづき

昨年、一市二町一村が合併した新・湯沢市の市長選でも再選を果たしました。

今回の視察では、同市のすすんだ福祉行政とその背景などを学んできました。



# AED

AED(自動体外式除細動器)は、心臓電気ショックの器械です。突然死の大部分は心臓がけいれんする「心室細動」という病気で、助かるチャンスは1分経過するごとに約10%ずつ失われるといわれます。このとき心臓を正常な状態に戻す機器として開発され、普及がすすんでいます。(写真は五浦の天心美術館に設置されたもの)



5万8千人。財政力は北茨城市よりもはるかに脆弱ですが、そこで展開される行政の姿には雲泥の差を感じざるをえません。多忙をきわめる鈴木市長でしたが、直接会って話をうかがうことができました。

市長は「誰もが安心して暮らせることが何よりも大切。夕張にならないように借金して、やるべきことはやる」と語り、歴代市長が着手できなかった市の特養ホームの改築を実施すると述べました。

「住民こそ主人公の市政をつらぬくうえで大切なのは、職員の意識を変えること」と同市長。毎年夏、高崎経済大学に10数人の職員を研修のために3泊4日派遣しています。

開かれた市政の一環として市長が重視しているのが

市内各所での住民説明会です。「市の予算や方針を説明し、率直な質問を出してもらうことが大事」と語ります。老人会の会合では

「あいさつの最後にカラオケを一曲歌って、場を盛り上げる。何ごとも楽しくしないとダメ」と持論を述べてくれました。

かつて湯沢市では鈴木俊夫現市長が、定数2の県議選で当選していました。その背景として「湯沢は戦前

から農民、教員の闘争や文化運動の盛んな土地柄。戦後も市長選や県議選に党が候補者を立ててきたので、共産党アルギーは他市に比べて薄いのかもしれない」とは党湯沢市議団の話でした。

湯沢市は「秋田美人の里」であり、「東の灘」と呼ばれる酒のまち。加えて「住民こそ主人公」の市政が、しっかりと市民の暮らしを支えているのです。

## 市役所にAED

### 設置予算を計上

この9月議会で、市役所本庁舎内にAEDを設置する予算50万円が計上・採択されました。担当課では、早急に購入・設置し、救急救命講習会も開催していくとしています。

なお茨城県では、関係施設にAED設置をすすめています。今年、基幹保健所5ヶ所をはじめ、県立図書館、県民文化センター、大洗水族館、運転免許試験



天心美術館での救急救命講習会

場(県警)など8ヶ所、計13ヶ所に設置されました。さらに市内五浦にある天心記念館でも、県が寄託を受けたAEDが設置され、さっそく館員さんたちが講習を受けていました。